



あたごやま

# 愛宕山

古くより火難除け、火伏せの神様として京の人たちに親しまれている愛宕権現。権現様を祀る神社への参道には今も常夜灯が立ち並ぶ



▲嵐山附近から望む愛宕山

標高**924m**  
京都府

歩行時間  
約**3時間45分**

標高差  
**824m**

問合せ先

京都市総合観光案内所  
☎075-343-6655  
嵯峨野観光鉄道テレフォンサービス  
075-871-3997

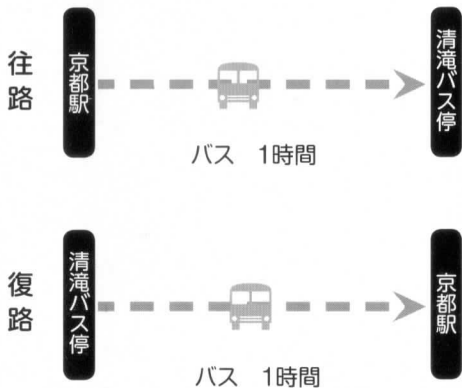
登山適期

4月～11月

愛宕山は京都盆地の西北にそびえ、東北の比叡山とともに古くより信仰対象の山として崇められてきた。山頂には愛宕神社があり火伏せの神様として京都の住民の信仰を集めている。大宝年間、修験道の役小角と泰澄が愛宕山に登った時に愛宕山太郎坊の神験に遭って山頂に廟を立てたことが霊山愛宕山の開基と伝えられる。それ以来「伊勢へ七たび 熊野へ三たび 愛宕まいは月まいり」といわれるほど愛宕山は修験道場として栄えた。また、愛宕権現は軍神として武士からの信仰を集め、明智光秀が主君織田信長を本能寺に攻める直前に愛宕神社を参詣し詠んだ発句「ときは今あめが下しる 五月哉」は有名だ。亀岡市から愛宕山への登山道は「明智越え」と呼ばれている。

## アクセス情報

京都駅からバス利用で



## ご利益行事

毎年7月31日の夜から8月1日の早朝にかけて参拝すると千日分の火伏・防火の御利益があるといわれ、多くの参拝者が訪れる。これは千日詣(せんにちまいり)といわれ、当日は麓の清滝から山頂の愛宕神社までの登山道(表参道)には明かりが灯され、7月31日は阪急嵐山駅や京福電鉄嵐山駅前と清滝の間は深夜までバス便が増発される。



## コースガイド

### 愛宕山表参道から山頂をめざす

清滝バス停-20分→三合目-20分→五合目-30分→七合目(水尾分岐)-20分→黒門-20分→愛宕神社-40分→月輪寺-40分→空也の出合-35分→清滝バス停

愛宕山は、山城と丹波との国境に位置し、都では最初に朝日をうけることから朝日峰と呼ばれた時代もあった。山頂は京都市の最高峰で京都市街をとり巻く山の中で、比叡山とともによく目立っており信仰の山としても知られている。愛宕山の登山ルートは

いくつもあるが清滝の猿渡橋から登るコースが表参道で、鳥居をくぐると山頂まで50丁、愛宕神社まで4000mの標識がある。ここでは表参道を登って、月輪寺を経由して下るコースを紹介する。

清滝バス停で下りたら、清滝川ぞいの車道を進んで猿渡橋を渡り二の鳥居が立つところからが愛宕山表参道の登山道になる。登山口の赤い鳥居をくぐり、登りはじめるとすぐに木樋から「お助け水」が流れ出ている。喉をうるおしたら出発しよう。

三合目を過ぎて五合目までは、しばらく樹林のなかの急坂がつづき、休憩舎のある五合目に到着する。愛宕山では家族連れの登山者が目につく。京都には、三歳までに愛宕神社に参拝すれば一生火難に遭わない、

## Power Spot

▶愛宕神社のご利益は火防守護だ。日本には木造建築物が多く、火災に対する恐怖は他の国に比べて大きなものがあり火防守護に対する信仰は特に強い。なかでも伝統的な木造家屋が多い京都は火災などが起きると壊滅的打撃を受ける。京の守護を火防という点で担っていた愛宕神社が庶民から絶対的な信仰を受けていることは容易に想像がつく。そして、その火防守護は、火傷などの火にまつわる災難に対してもご利益があるとみられる





▲保津川に沿って走る観光鉄道トロッコ列車

という民間伝承があり愛宕山には赤ちゃんや幼児づれで登るファミリー登山者も多いようだ。

五合目を過ぎると、コースは少しなだらかな坂がつづき、登山道の脇に立つ祠や鳥居を眺めながら登ると七合目・水尾分岐で水尾方面から清和神社を經由して登るコースが合流する。ここには屋根付きの休憩所があり、いつもたくさんの登山者が休憩している。

七合目からしばらく参道を登っていくと右手に水尾の集落が見えてくる。このあたりから階段道は急坂となり、行く手に黒っぽい山門が見えてきたら黒門（大鳥居）で、ここをくぐれば愛宕神社の境内になる。山門をくぐり、鳥居跡を過ぎると、左手に社務所が立ち、休憩所などがあり大休止するにはいい場所に到着する。

愛宕神社本殿は社務所のさらに上で、石灯笼がずらりと立ち並ぶ急な石段を登る。長い石段を登って本殿に参拝したら帰路につこう。本殿の社務所では有名な『火過要慎』のお札も手に入れることができる。



▲愛宕山の麓を流れる保津川は紅葉の名所

本殿から石段を下り、休憩所の前を左折して林道をすこし歩くと月輪寺方面への指導標が立っている。指導標にしたがって右に曲がり、尾根道を進むと京都市街や東山連山の眺めがよい展望が開けた岩地に出る。そこから尾根通しの道をしばらく下って行くと空也上人が中興の祖といわれる月輪寺に着く。

月輪寺は日本浄土宗の祖である法然も修行のために来参、九条兼実も隠棲したという古刹だ。親鸞は、流罪になる前の承元元年（1207）に、月輪寺に兼実を訪ねて別離を惜しんだと伝えられる。そのとき別離を惜しんで手植えしたと伝えられる桜があり、雨も降らないのに葉からしずくが垂れるとの伝承がある。

月輪寺から杉木立のなかの参道をしばらく下って行くと空也の出合に着く。右に登る道を少したどると空也滝があるので立ち寄ってみよう。空也滝から出合に戻り橋を渡ると林道の下りになる。左に清滝川を眺めながらのコースは、秋になると紅葉のすばらしい錦雲溪と呼ばれるところだ。しばらく行くとスタート地点の二の鳥居に到着する。



▲登山コースから少し下ったところにある空也滝



▲愛宕神社鳥居

### ご利益みやげ

火伏せ・防火の神、愛宕さんと言えば『火過要慎』(ひのようじん)のお札が有名。このお札は京都ではたいていの家庭の台所に貼ってあり、飲食店に入ってもよく見かけることがある京都の代表的なお札だ。

阿婆  
火過要慎

